

2018年9月1日

各位

主催者 たねと食とひと@フォーラム  
共同代表 吉森弘子 高橋広一  
東京都千代田区神田錦町 3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア 1342

## シンポジウム「ゲノム編集に規制は必要か」開催への賛同及びご協力について(お願い)

日頃より弊会の活動へのご理解ご協力に感謝いたします。

さて、9月29日にシンポジウム「ゲノム編集に規制は必要か」を開催することになり、みなさまのご協力を賜りたくご案内申し上げます。また、下記開催主旨をご理解いただき、何卒ご賛同(賛同金なし)・ご協力いただけますようお願いいたします。

### 記

政府が今年6月にまとめた「統合イノベーション戦略」に基づき、「ゲノム編集」で作られた生物の法的規制についての検討が始まります。昨年、規制の必要を訴える意見書を出した当会にとっては歓迎すべき動きですが、中長期的な生態系の維持を犠牲にした「イノベーション」の推進には注意が必要です。自然環境への影響、食の安全、食品表示のあり方を一つずつ考えていく必要があります。この7月に環境省の専門委員会で始まったのが、自然環境への影響を規制するカルタヘナ法が定義する「遺伝子組み換え作物」にゲノム編集の産物を加えるか否かという議論です。

しかし、この専門委員会には問題があると考えます。はじめから、外部からの核酸導入のないゲノム編集を規制対象外とするという方向性が鮮明になっていたのです。しかもここに参加しているのはバイオテクノロジー研究者ばかりで、その影響を受ける生産者や消費者の代表はまったく加わっていません。この状態では、広く市民全体の意見を反映した方針を打ち出すことはできません。

たねと食とひと@フォーラムは、バイオテクノロジーの農業応用の完全禁止を求めているわけではありません。ただ、広い層の市民を巻き込んだ社会的議論をふまえて、適切な規制のあり方を考えていくことを訴えています。今回のシンポジウムでは、ゲノム編集の農業応用をめぐる異なる立場の代表をお招きし、それぞれの見解を聞きつつ、環境への影響、食品としての安全性、表示の有効性を議論いたします。妥当な規制のあり方をめぐる合理的な論点を、それぞれのテーマで明確化することをめざします。市民一人一人が当事者であるこの問題に関して、多くの方の参加により取り組んで参りたいと考えております。

## 記

【日時】2018年9月29日（土）13：30～16：30

【会場】明治大学リバティタワー1123教室（東京都千代田区神田駿河台1-1）

【主催者】たねと食とひと@フォーラム

【資料代】一般1,000円 当会会員800円 学生500円

【テーマ】ゲノム編集食用作物技術と規制づくりについて

【パネリスト】（あいうえお順）

荒木涼子さん 毎日新聞社記者

石井哲也さん 北海道大学教授

菊地富夫さん 生産者 置賜自給圏推進機構常務理事

宮田満さん 日経BP社特命編集委員

山本卓さん 広島大学教授

吉森弘子 たねと食とひと@フォーラム共同代表

【コーディネーター】石堂徹生さん 農業・食品ジャーナリスト

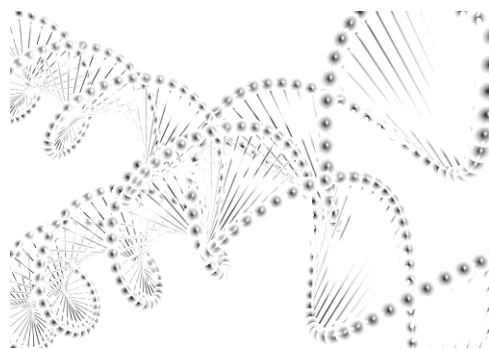
【連絡・問合せ先】たねと食とひと@フォーラム事務局 西分千秋

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア1342

Tel:03-6869-7206 FAX:03-6869-7204 Email:info@nongmseed.jp

URL：<http://nongmseed.jp/>

以上



シンポジウム「ゲノム編集に規制は必要か」賛同及び協力申込書

2018年 月 日

(よみがな) 個人または団体名		名前の公表
		可・不可
ご担当者名		
住所	〒	
電話		
FAX		
Email		
広報の協力 ☑をお入れください	<input type="checkbox"/> ホームページに掲載 <input type="checkbox"/> facebook 等 SNS でシェア <input type="checkbox"/> その他 ( )	
チラシ配布	枚	
当日手伝い	名	
連絡・問合せ先	たねと食とひと@フォーラム 東京都千代田区神田錦町 3-21 ちよだプラットフォームスクウェア 1342 Tel : 03-6869-7206 Fax : 03-6869-7204 Email : info@nongmseed.jp	

- ◆ 賛同及びご協力いただいた団体・個人は随時ウェブサイトにてご紹介させていただきます。
- ◆ 9月20日までに賛同及びご協力いただいた団体・個人は当日資料に掲載させていただきます。